

# 園内マップ

(→ おすすめコース)



## 01 反射炉跡



鉄製大砲の铸造のため、28代島津斉彬が築いた施設の跡です。斉彬たちは実物を見ず、オランダの書物を参考に苦心して建設。かつてはおよそ20mの高さの建物がそびえており、洋式工場群「集成館」の中核でした。

## 02 御殿



江戸時代は別邸として、明治時代からは一時本邸として使用された御殿。現存する御殿は明治17年(1884)に改築された建物が主体となり、藩主の部屋はすべて節なしの屋久杉で当時の雰囲気を感じていただけます。

## 03 尚古集成館 本館



現在、島津家800年の歴史や文化を紹介する博物館・尚古集成館 本館として使用されている建物は、慶応元年(1865)に竣工した、現存する日本最古の石造り洋式機械工場「旧集成館機械工場」です。

## 04 薩摩切子工場



薩摩切子工場では、吹きガラスによる生地づくりからカット・磨きまでの制作行程をすべて見学できます。美しいガラス製品「薩摩切子」が、職人たちの高度な技術で生み出される様子を間近でご体感ください。

## 10 正門



明治28年(1895)、29代島津忠義が建てさせた正門です。建材は樟が使用されています。門の上部中ほどに島津家の家紋・丸十紋が、その左右には同じく島津家の家紋である桐紋が彫られています。

## 12 錫門



この門は屋根を錫で葺いていることからその名があります。錫は薩摩の特産品です。江戸時代は、藩主とその世子(長男)だけが通ることを許された正門でした。

## H 島津薩摩切子ギャラリーショップ 磯工芸館



製造工場に隣接する、島津薩摩切子の直売店。国登録有形文化財の洋館をショップに利用しており、そのレトロな雰囲気も一見の価値あります。薩摩切子の他、地元作家の作品を多数取り揃えております。

## 14 鶴灯籠



安政4年(1857)、28代島津斉彬は鶴灯籠を用いてガス灯の実験を行いました。この後、城下町をガス灯で灯す計画を立てますが、志半ばで急死。豊かな国づくりを目指した斉彬の象徴となるものです。